超高齢社会に向けた分野横断研究会
NEWS LETTER Vol. 8

発行：2021 年 10 月 発行者：横浜市立大学 都市社会文化研究科 陳 礼美研究室　中井 紬

マンションにおける認知症高齢者・障害者の課題と解決策について
角田 光隆先生　（神奈川大学 法学部教授）

9 月 30 日 Zoom にて、第 8 回目の研究会が開催されました。今回は角田先生に、2019 年 11 月 10 日に発行された論文集、マンション学第 64 号のうち、「特集 分譲マンションにおける認知症高齢者等の課題に関する多角的研究―認知症その他の障害があっても住み慣れた地域で尊厳を守られて暮らせる共生社会の実現のためにー」を中心にお話しいただきました。先生は、認知症高齢者が抱える課題の解決策を探る視角を、①居住者の視角、②管理組合の視角、③管理会社等の視角、④行政・司法等の視角、⑤医療・福祉・介護の視角、⑥近隣住民、町内会・自治会その他の公共団体、民間事業者等の視角の 6 つに分けられたそうです。特に、②の視角に関して、マンション内の一人暮らし世帯・高齢者世帯の情報や、入居者の緊急連絡先を完備した事例をご紹介いただきました。これらの情報は日々の見守りにも使用されますが、個人情報の取扱いについては、管理組合の個人情報管理委員会で承認され、理事会に報告されているそうです。また、異変のある高齢者を早期に発見するために、住民からの通報の他、自治会などの団地内の組織、清掃事業者や宅配便業者などの外部事業者からも情報提供を依頼している、とのことでした。さらに、毎年 9 月には防災訓練を実施し、手助けが必要かどうか入居者に自己申告をしてもらうそうです。管理組合は、入居者名簿に災害時の声掛け希望の有無や支援方法の記載を促している、とのことでした。

質疑応答では、ケアがしっかりとマニュアル化されている事例を受け、自分たちのマンションで行われているケアについて、6 つの視角のうちどこまでできているのか、どの分野の人と何をすれば良いのかなど、今の環境を知ることができる自己点検シートを導入してはどうか、というご提案がありました。他にもたくさんの先生方から様々なご提案があり、さらなるマンションにおける認知症高齢者のケアについて盛り上がりました。

++*+